



学校だより

1月号
横浜市立桜台小学校
平成31年1月7日発行

今、新たな時代へと向けて

校長 西尾 琢郎

平成最後の年が明けました。皆さまには清々しい新年をお迎えのことと存じます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

今、この原稿を認めておりますのは1月4日の朝です。昨日は恒例の箱根駅伝で復路のレースが開催され、東海大学が見事に初の総合優勝を飾りました。その興奮も覚めやらぬ中、夕刻には熊本県和水市で最大震度6弱を記録する強い地震が発生。今年こそは平穏にという願いを抱きつつも、いつ何時、どのような災害に見舞われても平静を保つことできる心構えや、そのための備えを整えておくことの大切さを痛感する三賀日の締めくくりとなりました。

話を駅伝に戻しますと、今年の大会に5連覇を掛けて臨んだ青山学院大学の原監督は、インタビューに答えて「進化しないと退化する」と述べたそうです。駅伝競走というレースの世界ならではの厳しさを感じさせる一言ですが、それだけに終わらない深い意味があると感じさせられました。同じ場所に立ち止まっているつもりでも、周囲が前へ進めば、それは後退しているのと同じことだ、というのが監督の発言の真意に違いありません。

公立学校が地域で果たすべき役割は、その性格上、伝統や前例を重んじた保守的な性格を帯びたものになりがちです。それは地域をその地域たらしめる大切なものでもあります。しかし今、日本の社会は大きな曲がり角を迎えています。年号が変わるといふこのタイミングも、それが変化をもたらすというよりは、変化を追いかけようとするもののように思われるほどです。

そんな中、学校教育もまた「進化しないと退化する」時を迎えているのではないかと思います。私たちは、私たちと違った形で学び、違った課題に向き合い乗り越えて行く子どもたちを育てていかななくてはなりません。ただしそれは、決して伝統や前例の否定ではなく、それらを土台として踏みしめた両足で力強く跳躍することで、はじめて実現できることだと考えています。

いよいよ再来年度、東京五輪の年には、新しい学習指導要領が全面施行を迎えます。その指導要領が求めていることの 하나가「社会に開かれた教育課程」の実践です。私たちが目指す進化は、地域社会の皆さんの思いと共にあります。来年度以降に向け、本校でもさらに地域の皆さんの思いに耳を傾け、その声に応えるための活動に力を注いで参ります。どうかお知恵を貸してください。そして私たちの子どもたちが、これから生きていく社会を、自らの意思で、よりよいものへと変えていく力を育むことができるよう、力をあわせて参りましょう。

改めまして、本年も桜台小学校をどうぞよろしく願いします！